

5 歳児の乳歯齲蝕本数と生活習慣

○山本未陶^{1,2}, 筒井昭仁^{1,2}, 中村譲治², 岩井梢², 松岡奈保子²
 (1福岡歯科大学, 2NPO法人ウェルビーイング)

【背景】子どものむし歯（以下、齲蝕：うしよく）は年々減少しているが、5歳児の齲蝕有病者率は60.5%（平成17年歯科疾患実態調査）と高い。同調査における3歳児の齲蝕有病者率は24.4%であり、3歳以降の齲蝕増加抑制が特に重要である。そこで3歳以降の齲蝕増加要因を探ることを目的とし、5歳児の乳歯齲蝕と生活習慣の関連を検討した。【対象と方法】平成16年にNPO法人ウェルビーイングが福岡県内8園の保育園・幼稚園に通う5歳児を対象として実施した質問紙調査結果(FSPD 3 & 5型 2004：同法人が開発)を用いた。これは3-5歳までを対象とする齲蝕予防のための調査票である。PRECEDE-PROCEEDモデルの各因子を参考とした全32項目からなり、属性を含めて保護者が記入する。各子どもの齲蝕本数は園で行われる歯科健康診断結果から特定した。【結

果】解析には質問票と齲蝕本数のデータが揃った315名分を用いた。属性を表1に、齲蝕本数を図1に示す。欠損値があった者および今回の分析では無効な解答（選択肢：昔のことだから忘れた）を選んだ者を除く255名（齲蝕の無い者の割合：48.1%）のデータにて齲蝕の有無を目的変数としたロジスティック回帰分析を行い、5つの説明変数が選択された(表2)。【まとめ】5歳で齲蝕がある者を説明する変数として、甘いおやつ回数が多いことや、1、2歳時の食習慣の影響が確認された。定期健診に行っている者に齲蝕が多いのは、治療をきっかけとして定期的に通う子どもが多いためと推察される。

(連絡先)

山本未陶(福岡歯科大学口腔保健学講座)
 〒814-0193 福岡市早良区田村 2-15-1
 E-mail: fujiyosi@college.fdcnet.ac.jp

表1 対象児の属性 (N=315)

性別	男児 47.0%, 女児 53.0%
兄弟数	1人 19.0%, 2人 54.6%, 3人以上 25.5%, 記入漏れ 1.0%
出生順	1人目 53.0%, 2人目 37.8%, 3人目以上 8.5%, 記入漏れ 0.6%
祖父母との同居の有無	無し 85.7%, 有り 13.6%, 記入漏れ 0.6%

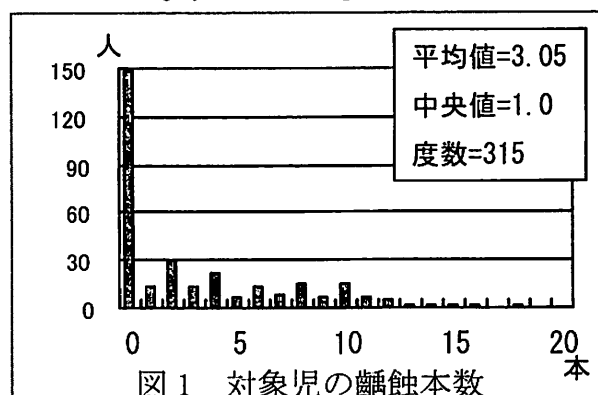


表2 齲蝕の有無を目的変数とした二項ロジスティック回帰分析 (N=255)

選択された説明変数	オッズ比	95%信頼区間
甘いおやつ摂取回数が多い (ほとんど与えない・1回位/2回位・3回以上)	2.81	1.59-4.98
断乳完了が遅い (1歳未満・1歳以上1歳半未満/1歳半以上)	2.47	1.15-5.29
哺乳瓶でジュースを飲ませた (よく・時々/あまり・ほとんど)	1.92	1.06-3.48
定期健診には家族の協力が必要である (おおいに・少し/あまり・全く)	1.78	1.05-3.03
年2回以上、定期健診に行っている (はい/いいえ)	0.51	0.30-0.87